

◆【解説】「『深い学び』を具現する授業デザイン例」について

相双教育事務所では域内の学校における授業改善を推進するために、「深い学び」に焦点を当て、授業展開の一例などを示した「『深い学び』を具現する授業デザイン例」を作成しました。授業デザイン例では、2つの視点を設定し、深い学びを具現する仕掛けや発問についてのポイントなどを紹介しています。

「深い学び」を具現する授業デザイン例 社会（中）

学習指導要領における領域・内容
 中学校 地理的分野
 A (1) ア (イ) 我が国の国土の位置、世界各地の時差を大まかに理解すること。

本時のねらい
 太陽に見立てた懐中電灯と地球儀を用いて標準時について学ぶことができる。

授業デザイン例 学習者の視点

「深い学び」のカギとなる授業者の仕掛けや発問は、太線で囲んでいます。

「『学習者』の視点(①~⑬)と『授業者』の視点(A~U)」(下図参照)を設定しました。双方の視点が往還することによって、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。

「本時における『深い学び』を具現する仕掛けや発問」について、ポイントをまとめました。

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

□ 標準時や時差の必要性を生徒自身に気付かせるための体験的な活動や問いによって、それぞれの国で時間が異なる理由について実感を伴った理解につなげたい。その上で「時差」という語句を伝えることで、時差についての理解を深めることが期待できる。(視点N-視点⑩)

	『学習者』の視点	『授業者』の視点
主体的な学び	① 学ぶことに興味や関心を持つ	A 既習事項を振り返る
	② 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける	B 具体例を提示して引きつける
	③ 見通しを持つ	C 子どもが明らかにしたくなるような学習課題を設定する
	④ 粘り強く取り組む	D 子どもが自らめあてをつかむようにする
	⑤ 自己の学習活動を振り返って次につなげる	E 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる
対話的な学び	⑥ 子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める	F 子どもが自分の考えを持つようにする
	⑦ 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める	G 子どもの思考を見守る
	⑧ 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める	H 子どもの思考に即して授業展開を考える
	⑨ 先哲の考え方を手掛かりに考える	I 子どもの考えを生かしてまとめる
深い学び	⑩ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる	J その日の学びを振り返る
	⑪ 知識を相互に関連付けてより深く理解する	K 新たな学びに目を向けさせる
	⑫ 情報を精査して考えを形成する	L 思考を交流させる
	⑬ 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	M 交流を通じて思考を広げる
		N 協働して問題解決する
	O 板書や発問で教師が子どもの学びを引き出す	
	P 資質・能力を焦点化する(つきたい力を明確にする)	
	Q 単元や各授業の目標を把握する	
	R ねらいを達成した子どもの姿を具体化する	
	S 教材の価値を把握する	
	T 単元及び各時間の計画を立てる	
	U 目標の達成状況を評価する	